食ライフスタイルに関する研究 (8)

—母親との関係が大学生の食ライフスタイルに及ぼす影響—

○小野寺敦子¹・渋谷昌三²・河野理恵¹・西川千登世³

(¹ 目白大学人間学部,² 目白大学社会学部,³ 目白大学大学院心理学研究科)

キーワード: 食ライフスタイル, 母親との関係, エゴレジリエンス

Research on Dietary Life Style (8)

-The influence of current mother-child relationship on university students' dietary life style -

Atsuko ONODERA, Shozo SHIBUYA, Rie KAWANO and Chitose NISHIKAWA

(Mejiro University)

Key words: Dietary Life Style, Mother-Child Relationship, Ego-resilience

【目 的】

小野寺他(2009)は,幼児をもつ母親の食ライフスタイルと養育態度との関連について検討した。その結果,季節行事や伝統的な食事を重視する「おせちママ」はバランスのとれた養育態度をとっていたが,コンビニを頻繁に利用する「手抜きママ」は子どものわがママを聞き入れ,やりたいことを優先させる養育態度(アンダーコントロール型)をとる傾向が明らかになった。そこで本研究では近い将来,親になるであろう大学生の食ライフスタイルと現在の母親との関係について検討することにする。また大学生の食ライフスタイルとエゴレジリエンスとの関連性についても検討する。

【方 法】

＜調査対象者＞: 都内私立大学に通う大学生を対象に自記式質問紙調査を実施し,欠損値の多いものや回答が不明瞭なものを除いた378名(男性87名,女性291名)を分析の対象とした。平均年齢は19.89歳($SD=1.55$)であった。

＜調査時期＞: 2010年1月～2010年3月。

＜質問紙＞: 調査で使った質問紙は食ライフスタイルに関する研究(5)のとおり,(a)から(i)までの尺度と個人属性から構成されている。本研究では(a)食ライフスタイル尺度(食LSS)57項目(c)エゴレジリエンス尺度14項目(小野寺,2008)(e)大学生が評価する母親との関係12項目(小野寺,2008)を分析で使った。

【結 果 と 考 察】

大学生と母親との現在の関係を明らかにするために設定した12項目について因子分析(主因子分析法そしてプロマックス回転)を行った。その結果,第1因子では「何かする時には母親に励ましてもらいたい」「母親は私の心の支えである」など6項目で因子負荷量が高かったので「母親への肯定的感情」因子と命名した。また第2因子では「母親と私は意見が対立することが多い」「母親は私の生活に口出しをしてくる」など6項目で負荷量が高かったため,「母親への否定的感情」因子と命名した。第1因子の α 係数は.89,第2因子の α 係数は.82であった。次に「母親への肯定的感情」因子と「母親への否定的感情」因子の因子スコアを用いてK-means法によるクラスター分析を行った。その結果,4つのクラスターが得られた。次に,得られた4つのクラスターを独立変数,2つの感情得点を従属変数とした分散分析を行った(Table 1)。その結果,有意な群間差が見られたため,FisherのLSD法(5%水準)による多重比較を行った。第1クラスターは肯定的得点と否定的得点が共に高い傾向があったので「アンビバレント」群(81名)とした。第2クラスターは肯定的得点が高く否定的得点が低かったので「仲よし」群(95名),第3クラスターは両方の得点が共に低い傾向にあったので「希薄」群(130名)とした。第4クラスターは肯定的得点が低く否定的得点が高い傾向にあったので「対立」群(69名)とした。そして食LSSの4タイプ(気まま

食学生・コンビニ学生・おせち学生・無関心学生)と母親との関係の4タイプとの関係をみるためにコレスポンデンス分析を行った(Figure 1)。

Table 1 クラスター別各因子項目得点平均値及び分散分析結果

	a.アンビバレント群 (n=81)	b.仲よし群 (n=95)	c.希薄群 (n=130)	d.対立群 (n=69)	F値	多重比較結果
肯定的感情因子	2.91 (0.44)	3.29 (0.43)	2.13 (0.44)	1.66 (0.41)	249.03***	b > a > c > d
否定的感情因子	2.66 (0.38)	1.68 (0.39)	1.84 (0.37)	2.84 (0.45)	187.98***	d > a > c > b

*** $p < .001$

Figure 1 コレスポンデンス分析の結果

その結果,母親との関係が良好である「仲よし」群は「おせち学生」と,母親との関係が希薄である「希薄」群は「無関心学生」と,さらに母親との関係が良好ではない「対立」群は「気ままな食学生」ならびに「コンビニ学生」と近い関係にあった。このことから困った時には母親に相談し母親を心の支えとする学生は,伝統的な食事を重視し料理好きであることが示唆された。しかし母親をうっとうしいと感じ,時には対立する「対立」群は,ファーストフードやコンビニを頻繁に利用し,料理することもあるがコンビニもよく利用する気ままな食生活を送っている傾向がみられた。また食に無関心な学生は母親とのかわりも希薄なことが示唆された。以上のことから家庭における「食」の担い手である母親との関係の善し悪しが大学生の食ライフスタイルに影響を与えていることが推測された。さらにエゴレジリエンス尺度得点(14項目の合計得点。 α 係数は.827)が食LSSの4タイプによって違いがあるかを一元配置の分散分析と多重比較によって検討した。その結果,有意な得点差が4群間でみられた($F(3,357)=11.06, p < .001$) (無関心学生($M=2.33$)・コンビニ学生($M=2.44$) < 気ままな食学生($M=2.51$) < おせち学生($M=2.68$))。

引用文献

小野寺・渋谷・河野・西川(2009)食ライフスタイルに関する研究(4) —母親の食ライフスタイルと養育態度との関連— 日本心理学会第73回大会論文集, p.224。

本研究は平成21年度目白大学特別研究費の助成を受けている。